

を均一にする傾向がある。又酸素量の小及び大なるものは930°~1050°Cの間に於て酸素量の中なるものより結晶粒の生長が行われ易い。

2) 純ニッケル鋼に於ても含有ニッケル量の少いものは酸素量が大であると異常鋼となり易いが、酸素量が大であつてもニッケル量が大であるものは異常鋼とはならない。

3) 純ニッケル鋼の焼入性も酸素量が大であれば著しく阻害される。しかしながら酸素量の大なるものでもニッケル量が増加するに従つて焼入性は酸素量の小なる方に近づく。

4) 以上の如く含ニッケル鋼は酸素の影響を緩和するものであるから、一方白點の發生し易いことを考慮すれば多少の脱酸を犠牲にしても脱水素を行うような精練方法を講ずべきである。

しかしながら以上のことが果して酸素のみに原因するものであるか否かは確認出来ないし、又酸素が如何なる形でどのように鋼中に分布しているかを知ることが今後に残された問題となつて来る。

本研究の遂行に當つて東北大學教授工學博士的場幸雄先生に御懇篤なる御指導と御鞭撻を賜りました。こゝに謹んで満腔の謝意を表し奉ります。

又多大の御援助と御指導を賜つた當所木村吉吉所長、工學博士山本信公技術部長、理學博士三井三郎技術部次長、山下政明技術部次長、理學博士大中都四郎製鋼課副長に心から感謝を捧げ奉ります。(昭和26年6月寄稿)

- 1) P. Oberhoffer, H. J. Schiffer & W. Hessenbruch:  
Arch. für Eisenhütt. **1**. (1927-28) 57
- 2) 齋藤: 鐵と鋼 第36年3號 (1950) 28
- 3) 大中, 齋藤: 鐵と鋼 第36年3號 (1950) 35
- 4) 脚註 1) 参照
- 5) 脚註 1) 及び P. Oberhoffer: St. u. Eis. **45** (1925) 1342
- 6) F. C. Thompson & L. R. Stanton: J. Iron & Steel Inst. (1948) 259.

### 6 月 號 論 說 豫 告

鋼塊鑄型の溫度分布とそれに及ぼす湯道煉瓦噴出口の形狀効果に就て	{ 山 木 正 義 須 關 昭 一
鑄鋼製鑄型に就て (II)	{ 深 堀 佐 市 安 生 浩
傾斜壓延に関する研究 (II)	池 島 俊 雄
鐵鋼中に於けるジルコニウム	{ 三 島 德 七 三 橋 鐵 太 郎
特殊鑄鋼の研究 (II)	三 ヶ 島 秀 雄
白心可鍛鑄鐵の性質に就て	内 藤 逸 策